

## 3

## 県内の家庭教育支援団体の具体的な取組

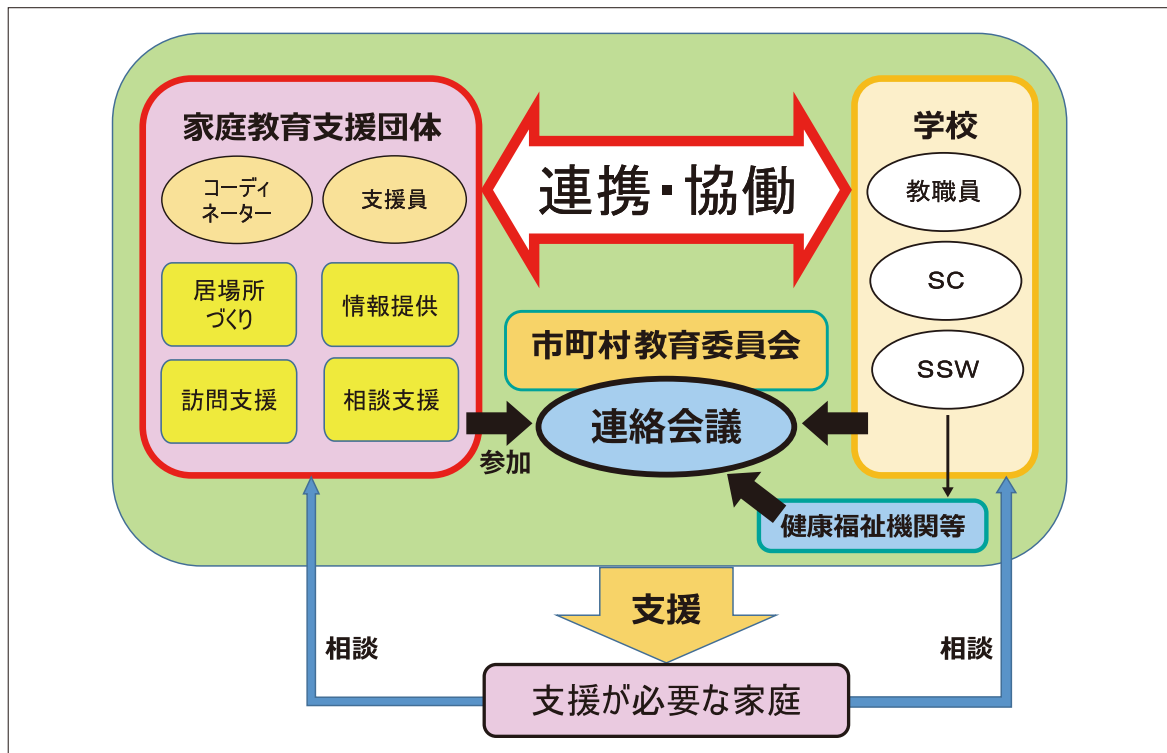
—子どもたちの成長を支える「地域のチカラ結集」推進事業  
モデル地域における取組の実践から—

p.3でも述べたとおり、家庭の孤立化により、いじめや虐待等の問題が生じた場合、親が問題を抱え込んでしまうなど、家庭教育を行うことが困難な現状が指摘されています。

このような中、青森県教育委員会では、平成30年度及び令和元年度の2カ年、市町村教育委員会等を事務局とし、教職員、家庭教育支援団体関係者、SC、SSW、健康福祉機関等が参加する実行委員会を県内6市町村に組織し、多様な機関が連携・協働しながら、仕組みのモデル構築に取り組みました。

この取組の実施に当たっては、実行委員会のメンバーをはじめ、公民館や市町村福祉部局等、関係機関が連携を深めるため、連絡会議を開催しています。

ここでは、県内6実行委員会の取組の様子を御紹介します。各実行委員会の取組からは、保護者と地域の方の交流の拡大、家庭教育支援団体と学校、公民館、町内会等とのつながりの強化、子育ての先輩である地域の方に保護者が相談できる場の提供など、多くの成果が見られました。一方、支援が必要な家庭を訪問し、相談活動や情報提供をする体制を築く必要があるなど、課題も見えてきました。



地域のチカラを結集して支援が必要な家庭を支える仕組みのイメージ

# 1 青森市実行委員会

## 青森市基本データ

人口 約 281.4 千人(令和元年 12 月 1 日現在)  
小学校 45 校 中学校 19 校

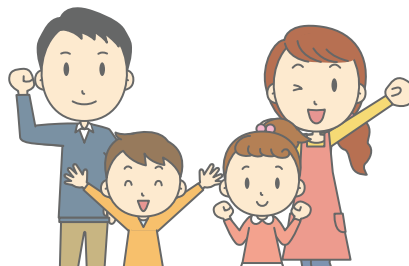
### 1 実行委員会の構成員

NPO法人子育て支援者（2名） SC 短期大学講師 CSディレクター※  
市社会教育委員 家庭教育支援チームメンバー 教育委員会職員 【計8名】

※CSディレクター：学校運営協議会の会議運営の補助や、学校間、関係者との連絡・調整など、学校運営協議会に関わる業務を担う地域人材。

### 2 活動対象

小学生、中学生の子どもを持つ保護者



### 3 活動の目的と取組内容

#### ① 家庭教育支援活動の周知

多くの保護者が来場する中学校の文化祭の場で、実行委員（CSディレクター）が担当するブースの一角に、青森市家庭教育支援チームの活動報告、講座紹介や情報提供のパネル展示を行いました。保護者や地域の方、教職員はもちろん、将来親となる中学生に対しても、家庭教育の役割や重要性について周知することができました。



中学校文化祭での  
家庭教育支援チームの紹介

#### ② ワークショップ「みんなの学校～これからの地域づくりを考える～」

青森市中央地区社会福祉協議会との協働により、地域のこれからの地域住民で考えるワークショップ「みんなの学校」を実施しました。ここでは、地域の方々が小・中学生等と同じテーブルにつき、実行委員がファシリテーターを務めながら、「通学路の雪かきはみんなで協力しよう。」「買い物の不便さは解消できる？」など、一緒になって地域のこれからの考えました。同じ地域の住民同士で、大いに交流も深めました。



ワークショップ「みんなの学校」

## ③ 中学校での料理教室「郷土料理を楽しもう！」

保護者や中学生等を対象とした料理教室「郷土料理を楽しもう！」では、青森中央短期大学 准教授 木村亜希子先生、専任講師 浜中幸美先生の御指導の下、企画・運営に当たりました。中学生やその保護者が地域の支援者等とともに料理したことで、地域の交流の輪が広がる良い機会となりました。



「郷土料理を楽しもう！」

## 4 成果

- ・ 「郷土料理を楽しもう！」を実施するに当たっては、5度にわたり、講師との打合せを入念に行いました。**事業を通して、互いの信頼関係が構築**され、これまで関わりの少なかった大学と各実行委員との連携が進みました。
- ・ これまで実行委員会メンバーが関わっていた「家庭教育支援」は、保護者対象の子育て講座等を行うことを中心としていましたが、親子や地域住民・学校を巻き込むことで、**活動の幅が大きく広がる**ことに気がきました。
- ・ 多様な機関と連携することで、各実行委員が日頃の活動成果（運営や準備、行動力等）を振り返ることができ、モチベーションの向上につながりました。

## 5 課題

- ・ 様々な機関や団体と連携して事業を実施する際、お互いの時間的な制約から、連絡等の不具合や認識の違いが出ることもありました。このことから、「**報告・連絡・相談**」をより強く意識しながら事業を進める必要を感じました。

## 6 今後の展望

- ・ 実行委員会のメンバーは、以前も市内の小・中学校において実施している家庭教育学級のサポート等を行ってきました。しかし、生徒・保護者・地域を巻き込んだ事業の実施までには至らずにいました。様々な主体と協働した実行委員会での経験を生かし、今後は、メンバーそれぞれが行っている事業について、**横のつながりを強化**することにも意図的に取り組みたいと考えています。また、**関係機関との連携を深めながら互いの信頼関係を構築**し、地域全体で保護者等を支える仕組みづくりを継続していきます。

〔 問合せ先：青森市教育委員会文化学習活動推進課 ☎017-718-1376 〕

## 2 今別町実行委員会

### 今別町基本データ

人口 約 2.6 千人(令和元年 11 月末現在)  
小学校 1 校 中学校 1 校

### 1 実行委員会の構成員

公民館長 家庭教育支援団体関係者 こども園園長 小学校教頭

民生委員 家庭教育支援コーディネーター（2名） 教育委員会職員 【計 8 名】

※家庭教育支援コーディネーター：町の家庭教育支援事業をコーディネートする業務を担う地域人財。

### 2 活動対象

乳幼児、小学生の子どもを持つ保護者

### 3 活動の目的と取組内容

#### ① 集いの場「ホットケーキサロン」の実施

「ホットケーキサロン」とは、子育て中のママやマタニティママを対象に、保護者同士のコミュニティを形成することと、子育てに関する悩みを気軽に相談できる環境づくりをねらいとして、概ね月に一度のペースで開催する集いの場です。

参加者はスタッフと一緒に「サンドウィッチづくり」や「ハーバリウムづくり」、「トルネードポテトづくり」等、毎回バラエティに富んだ活動に楽しく取り組みながら、子育てに関する様々な情報交換を行いました。スタッフは子育て相談にも応じており、安心して子育てできる環境を整えています。



ツリーデコレーションとホットケーキづくり



トルネードポテトづくり

#### ② 「家庭教育支援事業」の実施

保護者が、子どもの発達段階に応じて適切に関わる力を身に付けること、また、子どものコミュニケーション能力の向上等をねらいとして、「児童期子育て講座」、「プレーパーク」、「タグラグビー教室」を実施しました。

「児童期子育て講座」では、就学時健診の際に、新入生保護者を対象として行いました。小学校入学を控え、環境の変化から心身の変化も予想される時期を乗り越えるため、親子でのコミュニケーションのとり方について学びました。



児童期子育て講座



「プレーパーク」は、こども園を会場として開催しました。子どもたちは大人と一緒に創造力を働かせながら自由に遊び場を作り、夢中になって遊びました。

また、「タグラグビー教室」は、スポーツ指導者による指導のもと、大学生、高校生と一緒に、タグラグビーを行いました。学生ボランティアとの貴重な交流から、子どもたちのコミュニケーション能力の向上に寄与することができました。



プレーパーク



タグラグビー教室

#### 4 成果

- ・ 家庭教育支援コーディネーターが中心となり、入念に打合せを行うなど、事業の円滑な実施に向けて見通しを持って準備を進めました。また、公民館、こども園、小学校、町役場等の関係機関と連携し、事業を実施しました。公民館には地域人財とのネットワークがあり、こども園には乳幼児の興味・関心を引くノウハウがあるなど、各機関とも強みがあり、**それぞれの強みを生かした事業**ができたと考えています。
- ・ 多様な機関と連携した取組により、**保護者の居場所づくり、仲間づくりの機能**を十分に果たすことができたと考えています。

#### 5 課題

- ・ 町では少子化が進んでいることから、参加する保護者等は決して多いとは言えない状況です。これによる実行委員の**モチベーションの維持**が課題として残りますが、実行委員自身が楽しみながら活動を行うことで、課題を克服していきます。

#### 6 今後の展望

- ・ 引き続き、保護者の居場所づくりや学びの場の提供等に取り組む予定です。保育士から育児に関する助言をもらったり、民生委員から地域行事の情報提供や子育ての体験談を話してもらったり、得るものが多かったという声が参加者から届いています。関係者間で綿密に打合せを行い、**何を実施するのか、そのために必要なものは何かなど、話し合いを重ね、より効果の高い事業にしていきたい**と考えています。

〔 問合せ先：今別町教育委員会教育課 ☎0174-35-2157 〕

## 3 鱒ヶ沢町実行委員会

### 鱒ヶ沢町基本データ

人口 約 9.8 千人(令和元年 11 月末現在)  
小学校 2 校 中学校 1 校

#### 1 実行委員会の構成員

主任児童委員 地域学校協働活動推進員 子育てサポートセンター職員 (2 名)  
町子ども・子育て会議委員 教育委員会職員 【計 6 名】

#### 2 活動対象

乳幼児、小学生、中学生、高校生の子どもを持つ保護者

#### 3 活動の目的と取組内容

##### ① 「参観日カフェ」の実施

保護者同士のつながりづくりの強化を図るため、小・中学校の参観日に、各学校で年 3 回、保護者の育児相談や家庭教育に関する情報収集の場を提供しました。お茶を飲みながら一息ついてもらうことで、子育てに関する悩みやストレスを解消する場となり、また各学年の交流の場にもなっています。



参観日カフェ

##### ② 「家庭教育講演会」の実施

第 1 回講演会では、中学校の部活動と連携し、リオデジャネイロオリンピック出場の女子バレーボール選手、佐藤あり紗氏を講師に招き、子どもへの夢の持たせ方や親の関わり方などについて御講演いただき、キャリア教育や家庭教育の支援を図りました。



第 1 回家庭教育講演会

第 2 回講演会では、小学校の参観日に、東北女子大学 准教授 前田朝美氏を講師に招き、朝食の大切さと朝食抜きの健康への影響等について御講演いただきました。講演後は、簡単で栄養のある朝食の作り方教室も実施しました。



第 2 回家庭教育講演会

第3回では、日本テレビ「世界一受けたい授業」で栄養監修等を行っている管理栄養士、古池久美子氏をお招きし、子どもの成長期に必要な栄養を無理なく摂取でき、働く両親や子どもたちにも気軽に作れるレシピ等について講演していただきました。



第3回家庭教育講演会

### ③ 「木育広場」の開催

家族や友達、地域の方々とふれあい、コミュニケーションを図るとともに、多世代間の交流を図ることを目的として、木のおもちゃで存分に遊ぶことができる「木育広場」を開催しました。

普段はゲーム機で遊ぶ子どもも、ここでは木のおもちゃに夢中になって遊ぶ姿が見られました。また、父親、高齢者、中学生など多くの方が参加し、楽しく交流を図ることができました。



木育広場

## 4 成果

- ・ 事業を通して、実行委員会と多様な機関（保育園、小・中学校、PTA、スポーツクラブ、民生・児童委員等）とのつながりが強化されました。
- ・ 家庭教育講演会では、質疑応答の際に参加者から積極的に質問が上がるなど、**家庭教育に関する関心の高さ**をうかがうことができました

## 5 課題

- ・ 家庭教育支援に関する様々な事業に、**支援を必要としている保護者をいかに参加してもらうか**が、課題となっています。また、保護者に事業を広く認知してもらうために、関係機関と連携を図りながら周知活動を進める必要を感じています。

## 6 今後の展望

- ・ 朝食をとることの重要性、子どもの成長期に必要な栄養等、健康の保持・増進に関する啓蒙・普及活動については、**役場の健康担当部署と連携**を図りながら引き続き取り組んでいきたいと考えています。

〔 問合せ先：鱒ヶ沢町教育委員会教育課 ☎0173-72-2111 〕

## 4 野辺地町実行委員会

### 野辺地町基本データ

人口 約 13.1 千人(令和元年 12 月末現在)  
小学校 3 校 中学校 1 校

### 1 実行委員会の構成員

町社会教育委員 小学校教頭 町議会議員 町連合PTA会長 県社会福祉士会理事  
商工会女性部部長 女性団体構成員 教育委員会職員 【計 8 名】

### 2 活動対象

小学生、中学生、高校生の子どもを持つ保護者

### 3 活動の目的と取組内容

#### ① 住民対象のワークショップと講演会の実施

地域全体で家庭を支えるための核となる組織づくりに向けて、地域住民を対象としたワークショップ（計 6 回）及び講演会を開催しました。

ワークショップでは、毎回講師を招き、チームビルディングやアンガーマネジメントについての演習など、多彩なテーマを設定して実施しました。

講演会では、十和田NPO子どもセンター・ハピたの 代表理事 中沢洋子氏を招き、「地域で育つ子どもたちと共に学ぶ」をテーマに、子ども食堂「ハピたのカフェ」での交流の様子を御紹介いただきました。交流の場があることによって子どもや地域の変化がわかり、互いの関わりが密になってくることを御教示いただきました。



第1回ワークショップ

#### ② 地域と学校の交流事業の実施

地域と学校の交流の定着化を図るとともに、地域全体で家庭を支える仕組みづくりを目指し、小学校において地域と学校の交流事業を 4 回にわたって実施しました。

第1回は、地域住民と児童が花壇整備とジャガイモ・サツマイモの作付けを行いました。はじめは黙々と作業していた参加者ですが、花壇に花が次々と植えられていく様子や、いもの作付けに奮闘するうちに、自然と笑顔が増え、お互いの距離が縮まりました。

第2回は、中庭の草取りを行いました。単純な作業ですが、成果をはっきりと目にすることができ、満足感を味わうことができました。前回の参加者による口コミや、実行委員による周知方法の工夫により、格段に多くの地域の方が参加しました。



第3回は、ジャガイモとサツマイモの収穫です。初めて土から収穫する児童も多く、みんな楽しく笑顔のあふれる時間となりました。収穫後は、採れたてのジャガイモを使い、全員でジャガイモ渡しリレーも行いました。



第3回（収穫作業）

第4回は、収穫を祝して「いもリンピック」を行いました。収穫したジャガイモ等をおいしくいただくとともに、互いにレクリエーションで汗を流しました。



第4回（いもリンピック）

4回にわたる交流により、地域を愛する心や、互いに「顔の見える関係」が醸成されました。

#### 4 成果

- ・ 小学校との協働により交流事業を実施したことで、地域と学校との結びつきが強まるとともに、**地域住民と子どもたち、地域と家庭との距離が大きく縮まりました。**また、参加者からの声で最も多かったのが、学校での活動にはいつでも協力したいという言葉でした。実際に地域住民と協働し、得た地域のつながりは、子どもたちの育ちや家庭教育を地域全体で支えるための大きな一歩になると考えます。
- ・ 事業周知に関しては、各自治会長や関係団体へ直接お願いに伺い、快く御協力いただきました。また、報道関係の協力も得ながら、多くの参加者を募ることができました。

#### 5 課題

- ・ 地域と学校と一緒に活動することがごく当たり前のこととなるよう、活動を継続していく必要があります。また、参加者の中にはPTA関係者も多くいましたが、**子どもの保護者をより多く活動に巻き込んでいくことが今後の課題**となります。

#### 6 今後の展望

- ・ 地域と学校の交流事業については、小学校において、総合的な学習の時間での実施等、活動を根付かせる方法を模索してくれています。実行委員会としても、**より広く関係機関と連携しながら、交流事業を発展**させていきたいと考えています。

〔 問合せ先：野辺地町教育委員会社会教育・スポーツ課 ☎0175-64-2119 〕

## 5 佐井村実行委員会

### 佐井村基本データ

人口 約 2.0 千人(令和元年 12 月末現在)  
小学校 1 校 中学校 2 校

### 1 実行委員会の構成員

公民館長 子ども会育成会関係者 小学校 P T A 保育所父母の会 小学校校長  
教育委員会職員 (3 名) 【計 8 名】

### 2 活動対象

小学生、中学生の子どもを持つ保護者



### 3 活動の目的と取組内容

#### ① 「クリスマス会」の実施

児童と保護者、地域住民のつながりを強化することにより、子育てに悩みを抱える保護者が気軽に相談できる環境をつくること、また、相談できる場を提供すること、さらには公民館事業の活性化をねらいとして、「クリスマス会」を実施しました。

クリスマス会では、工作体験としてクリスマスツリーづくりを行った後、子どもたちは保護者や地域住民の手を借りながらクリスマスケーキを作りました。その後、仕事を終えて合流した保護者も一緒に、クリスマスパーティーを開きました。

子どもたちが遊んでいる時間帯には、保護者向けの「しゃべり場」を開設し、保護者は実行委員や地域住民と一緒に、子どもの家庭や学校での生活について、気軽におしゃべりを楽しんでいました。

#### ② 「参観日カフェ」の開催

保護者が子育てに関する疑問や普段悩んでいることを気軽に話せる場である「しゃべり場」の拡充をねらいとして、鱒ヶ沢町実行委員会 (p.21～) の取組を参考にしながら企画を練り上げ、小学校と連携しながら「参観日カフェ」を開催しました。

カフェは、年 2 回の小学校の参観日にあわせて、家庭科室にて実施しました。実行委員長 (公民館館長)、P T A 関係者が中心となり、カフェの準備及び運営に当たりました。



周知チラシ

当日は、授業参観、学級懇談前後の時間帯に続々と保護者が集まり、賑わいを見せました。参加者はスタッフと一緒にお茶やお菓子を囲みながら、学校生活のほか、家庭での様子や友達づきあいのお話などに花を咲かせました。



参観日カフェ

#### 4 成果

- ・ 参観日カフェでは、来場した保護者が、子どもの話だけではなく、村での生活の話なども和やかに話せる場となりました。**村外出身の保護者も多いことから、話題は子どもの話題にとどまらず、日常生活のことなど多岐にわたりました。**保護者にとっての**仲間づくりの場**ともなり、「**顔の見える関係**」がより広がったと考えています。
- ・ 公民館や小学校、子ども会育成会等、多様な機関と連携して取り組んだことにより、支援する側にとってもネットワークが広がりました。

#### 5 課題

- ・ 参加者の中には、保護者やスタッフで会話が盛り上がっていると「参観日カフェ」の会場に**一人では入りづらい**という声がありました。保護者同士のネットワークを広げるねらいからも、より入りやすい空間になるよう工夫する必要があります。
- ・ 支援を必要とする保護者が、不安や悩みをしっかりとスタッフに打ち明けられるまで、**お互いの信頼関係を構築**していくことが、今後の課題となると考えています。



実行委員会による話合いの様子

#### 6 今後の展望

- ・ 支援を必要とする保護者を関係機関につなげる必要がある場合、福祉部局の協力が必要となります。今後は、**福祉部局とも連携を一層強めながら、各取組を充実**させていきたいと考えています。

〔 問合せ先：佐井村教育委員会生涯学習課 ☎0175-38-4506 〕

## 6 八戸市実行委員会

### 八戸市基本データ

人口 約 227.8 千人(令和元年 12 月末現在)  
小学校 43 校 中学校 24 校

### 1 実行委員会の構成員

元小学校校長 元小学校 P T A 役員 小学校 P T A 役員 (2 名) 小学校校長  
民生委員 (2 名、うち 1 名は S S W を兼ねる。) 小学校教頭 教育委員会職員

【計 9 名】

### 2 活動対象

乳幼児、小学生、中学生の子どもを持つ保護者

### 3 活動の目的と取組内容

#### ① 参観日や P T A バザーでの預かり保育の実施

参観日や P T A の一大イベントであるバザーの日、保護者の皆さんが気兼ねなく、じっくりと行事に参加できるように、校内で乳幼児の預かり保育を行いました。

預かり保育には、地域住民にお手伝い募集の案内をし、実行委員会のほか、地域の子育ての先輩や保育士などにも協力していただきました。

利用する保護者には、預ける時間帯、子どもの年齢や緊急連絡先、兄弟の学年など事前に聞き取りし、情報をスタッフで共有し、万全の対応に努めました。また、家庭教育に関する相談にも応じました。



学校行事での預かり保育

#### ② 「教育講演会」及び「参加者カフェ」の実施

P T A との共催により、5・6年生と保護者を対象に、教育講演会を実施しました。講師は元養護教諭に依頼し、自己コントロールすることについてなど、わかりやすくお話ししていただきました。

講演後には、希望する保護者と講師の懇談会「参加者カフェ」を行いました。ここでは参加者と講師とが直接意見交換をし、子育てに関する多くのアドバイスをいただきました。



「参加者カフェ」での、講師との意見交換



### ③ 地域人財による多様な学習活動支援

教科や総合的な学習の時間などでの学習の充実のため、地域住民に声をかけ、学校での教育活動を支援しました。

1年生活科では、五穀豊穡を願う小正月行事「ほがほが」の体験や、老人クラブの協力を得て「むかしあそび」を行いました。4年総合的な学習の時間では、各町内会役員の見守りのもと、「地域安全マップづくり」を行いました。5～6年家庭科では、地域の大人がミシンボランティアとして、児童の作業を支援しました。



小正月行事「ほがほが」の説明



「むかしあそび」体験



地域安全マップづくり



ミシンボランティアに向けての学習会

## 4 成果

- ・ 実行委員のうち3名は「城北家庭教育支援チーム」のメンバーであり、拠点を小学校において活動しています。このことから、日常的に小学校との情報交換を密にとり、**課題を抱える家庭への支援をタイムリーに行う**ことができます。
- ・ 実行委員にはSSW、児童委員、子育て支援団体構成員として活動している方もいます。実行委員会と町内会、老人クラブ、社会福祉協議会等とが連携した様々な取組を通して、**保護者や地域住民のつながりづくり**に寄与することができたと考えています。

## 5 課題

- ・ 地域の先を見据えながら活動を継続していくために、**メンバーの増員**や**若手の育成**が課題となっています。

## 6 今後の展望

- ・ 県外には、相談機関等が集まり、配慮を要する家庭等について、定期的に情報交換をしている地域があります。家庭教育を支援する仕方は地区ごとに様々ですが、これまで以上にアンテナを高く張り巡らせて、地域に必要な支援とは何かを模索しながら、きめ細かい支援に努めていきたいと考えています。

〔 問合せ先：八戸市教育委員会社会教育課 ☎0178-43-9154 〕